

平成 28 年度 一般会計当初予算額 91 億 4 千万円

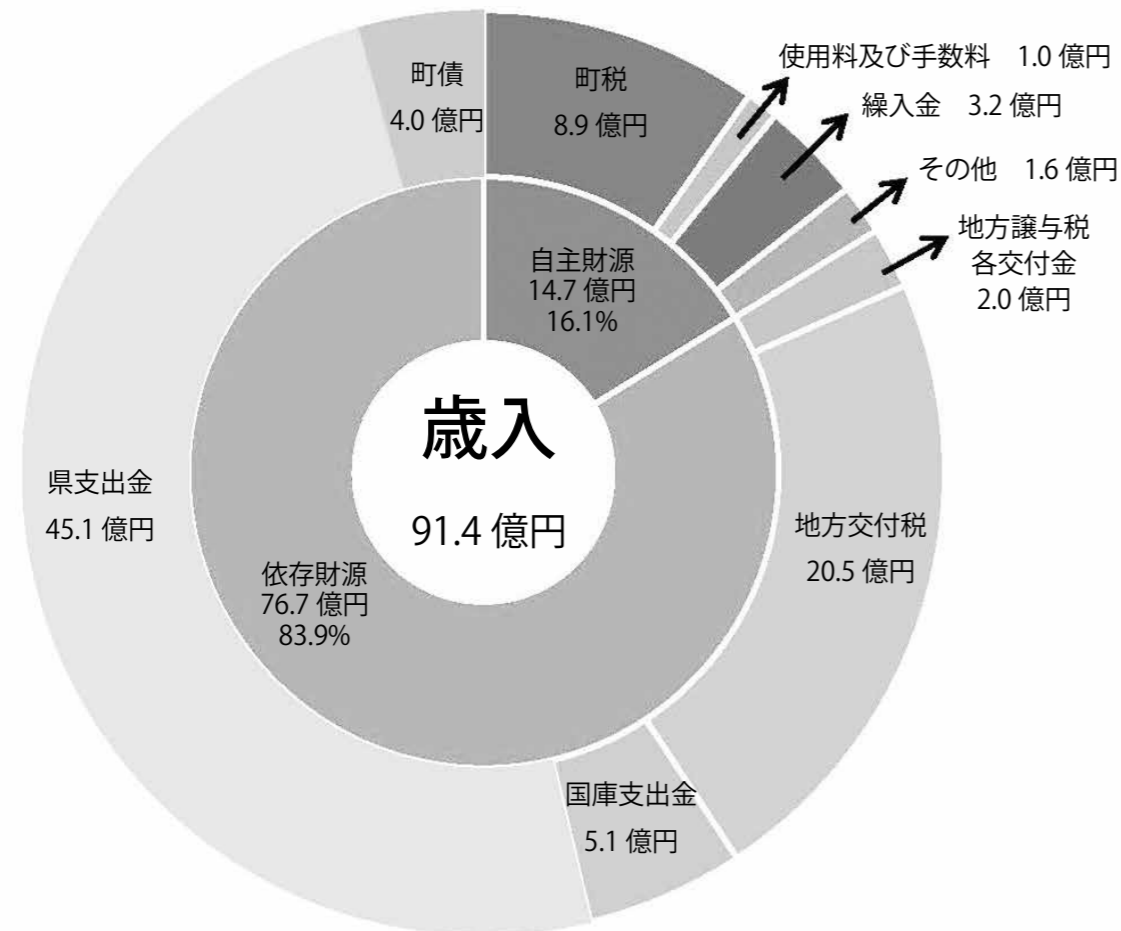
(通常分 45.8 億円、復旧復興分 45.6 億円)

< 『復興・絆』『元気・活力』

しんか(進化・深化)予算 >

平成 28 年度国見町各会計予算は、3 月定例議会で議決され、4 月から執行されています。『復興・絆』『元気・活力』しんか(進化・深化)予算として「第 5 次国見町振興計画(後期計画)」及び「国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略」等を着実に実践するとともに、国見の未来をつくる 5 つの目標「①東日本大震災からの早急な復旧・復興」「②安全安心な町政の実現」「③活力ある町政の実現」「④思いやりのある町政の実現」「⑤国見町の継続的な維持発展」をより「しんか(進化・深化)」させる予算として編成しました。

歳入

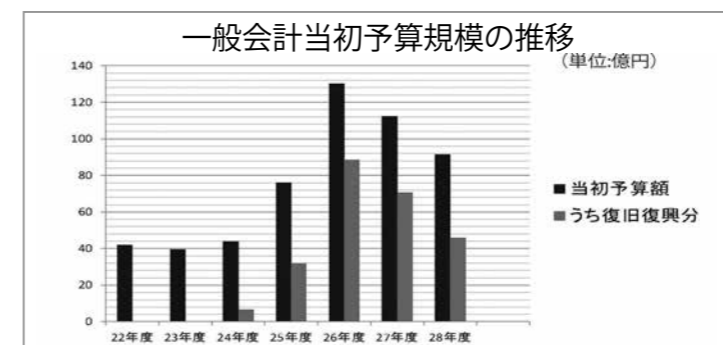
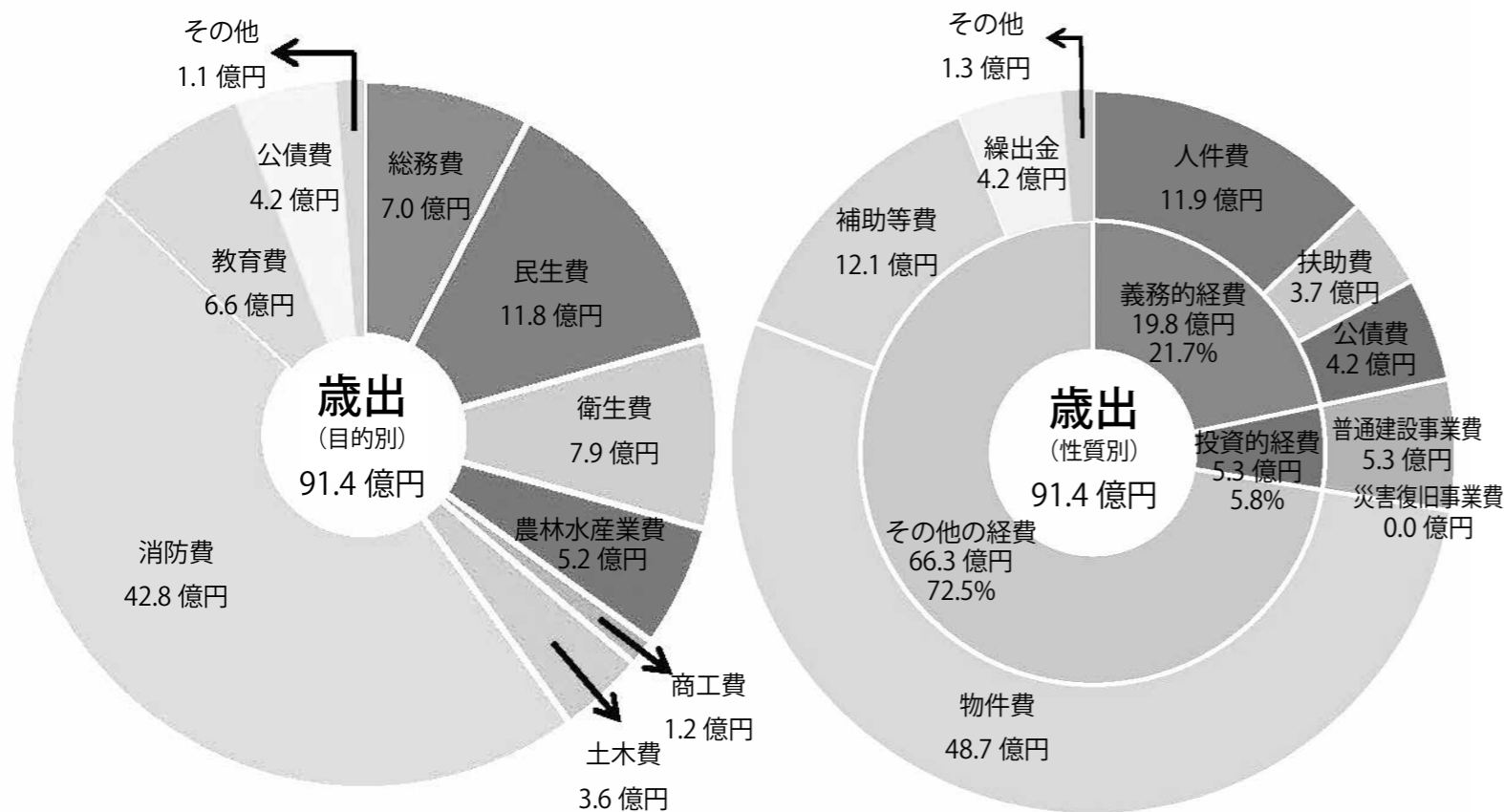


自主財源となる「町税」は、復興需要の影響等から 16000 万円増の 8 億 9410 万円(前年度比 1.8%増)になります。繰入金は、財政調整基金及び復興基金等から 3 億 2377 万円(前年度比 23.4%減)を繰入れ、収支の均衡を図っています。依存財源となる「地方交付税」は、普通交付税と震災復興特別交付税を合わせた総額 20 億 4445 万円(前年度比 0.8%増)になります。「国庫支出金」は、交流の場(道の駅)整備事業費が皆減したため、総額 5 億 691 万円(前年度比 50.1%減)になります。「県支出金」は、住宅除染が完了したことと総額 45 億 1271 万円(前年度比 21.7%減)になります。「町債」は、住宅改修事業など必要な建設事業費に充当するため、3 億 9740 万円(前年度

歳出

比 44.7%減)を借入しますが、後年度に普通交付税措置がある有利な起債を活用するなど将来的な財政負担の軽減に努めています。

性質別の内訳は、義務的経費となる「人件費」が復興事業に伴う人員増で 4.1%、「扶助費」も少子高齢化により 4.8%それぞれ増加しています。投資的経費となる「普通建設事業費」は、交流の場(道の駅)整備事業費の皆減で 72.6%減少しています。その他の経費となる「物件費」も住宅除染の完了により、除染対策事業費が 11 億円強減少したため、13.7%減少しています。目的別の内訳は「消防費」が最も多い 42 億 8250 万円(構成比 46.9%)ですが、これは除染対策事業費が含まれているためです。「民生費」は、高齢者・障がい者・児童福祉等に対する時代に対応した社会保障事業、さらには臨時福祉給付金事業



で 10.2%の増になります。「農林水産業費」は、加工施設整備事業、ため池放射性物質対策事業、森林再生事業等で 51.6%の増になります。また、91 億 4000 万円とは別に平成 27 年度から 28 年度へ 33 億 2000 万円強を繰越して、交流の場(道の駅)整備事業、除染対策事業、地方創生加速化事業等を執行します。